



## 「声の広報」、私たちが届けています

「こえの会」(齊藤まき子会長、会員23人)は、目の不自由な人のために毎号の広報紙を音訳し、CDにしてくださっているボランティアグループで、活動をスタートして43年になります。メンバーの皆さんは、身近な「広報ゆりほんじょう」の300号にあたりお祝いの笑顔を添えてくれました。(9月2日、カダーレで。関連記事7頁)

地域で頑張っている皆さんを「ダーツの旅」風に追っています!

Your Smile

やわらかな、若い風 25

Monthly Happy Communications



## 本荘南中学校ボート部のコーチをしています 教育の一環として、「ありがとう」を大切に

### 佐々木 藍さん

SASAKI Ai

藍さんは市内の学校に勤務しながら、本荘南中学校ボート部のコーチをしています。「私自身、南中～本荘高、大学でボート競技に打ち込み、秋田に戻って国体選抜選手やコーチをして11年になりました」。指導したペアが7月に全国大会で優勝。(9月1日号6頁)「昨年は準優勝で、今年ついに金メダル。10年で、少しずつ進歩できたように思います」と、にこやかな表情で振り返ります。

こぎ方ではなく、チームや競技への思いを育てる指導が重点。「勝利至上主義にならず、地域に愛されるチームになるように」と説く藍さんです。

趣味は地図観賞で「住んだり、旅行に行ったりした気分になれます」。「ボートは努力が報われやすい競技です。今後も活気のあるチームづくりを目指します」と話し、目を輝かせました。



指導する部員たちと

- ♥34歳、西大楯町 ♥性格 欲張り、強がり。
- ♥好きな言葉 「ありがとう」。ボート競技には「ありがとう」という専門用語があります。「ありがとう」という指示のある競技はほかにないと思います。
- ♥市内で好きな場所 桶屋町、後町、日役町界隈。粋な職人の街を感じます。
- ♥お世話になっている方へ 監督の先生へ、わがまま言ってしまう。アクアパルの皆さんへ、環境づくりにご協力くださり、とても感謝しています。

ふれあい  
サイドストーリー

## ▶ 地域づくり推進事業で「全住民参加型PR動画」を公開! ◀



貝沢開基400年記念

★PR動画はYouTubeのサイトで「貝沢開基400年記念」で検索して見るができます。

(関連記事は12頁参照)

鳥海地域の貝沢で、集落の開基400年を記念した「全住民参加型PR動画」が公開されました。これは市の地域づくり推進事業を活用して制作したものです。貝沢集落の開田が始まったのは江戸初期の元和元年(1615年)。以来、稲作を営み、民俗芸能「貝沢からうすからみ」や「貝沢神楽獅子」(ともに市指定無形民俗文化財)を伝承しながら400年余りの歳月を重ねてきました。

「鳥海山の水の恵みに感謝して」と題したPR動画には全住民99人が参加。今後もモニュメント「立体獅子額」の製作などが予定されています。

集落自治会の高橋喜和会長は「動画撮影の際は、全員に参加してもらうために一軒一軒の希望をとりながらスケジュールを調整しました。山と水の恵みを受けて400年も存続してきたものを大切にしたい。動画を通して集落の魅力を発信し、伝統を継承する新たな力にしたいと思います」と話しました。



貝沢の法被を着た高橋会長

Interactive  
Side Story



皆さんの笑顔が伝えてくれることをこれからも――

# 話題と笑顔を届けて 300号

「広報ゆりほんじょう」が創刊300号となりました。平成17年3月22日、旧1市7町が合併して由利本荘市が誕生し、4月1日に第1号を創刊されました。以来、12年6カ月わたってご愛読いただきながら、市にお住まいの皆さんと一緒に作ってきた「広報ゆりほんじょう」。今号ではこれまでの出来事を振り返りながら、広報事業の取り組みや目的などを一緒に考えてみましょう。

## 紙面で見える「市の歩み」

- 平成17年**
- 3月22日 本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町が合併し「由利本荘市」誕生。当初人口9万1278人、世帯数は2万9669世帯（2月末日現在、本荘中学校開校式）
  - 4月6日 本荘中学校開校式
  - 4月17日 市長選挙で柳田弘氏が当選、初代市長に
  - 4月23日 「はいんすば新山」オープン
  - 7月30日 総合体育館オープン
  - 10月4日 合併記念式典を挙げる
- 平成18年**
- 4月20日 遠藤章博士（東由利地域出身）に日本国際賞
  - 6月5日 海岸林再生事業にTDKから1億2千万円の資金援助
  - 6月22日 市ソフトボール場オープン
  - 9月1日 石脇財産区創立100周年記念式典
  - 9月8日 芋川桜つつみパークゴルフ場オープン
  - 11月1日 市の花「さくら」、木「ケヤキ」、鳥「モジ」を決定。由利本荘市歌が完成
- 平成19年**
- 1月7日 第15回アジア競技大会のボート競技・金メダリストの佐藤芳則さん（矢島地域出身）に初の「市民栄誉賞」を贈呈
  - 2月10日～12日 秋田わか杉国体冬季大会・バイアスロン競技を実施。伊藤淳一さん（大内地域）が同競技種別で、梅原玲奈さん（本荘地域）がスキー大回転成年女子Aで優勝



市の誕生による本庁舎開庁式が表紙に（創刊号）



合併記念式典を挙げる（平成17年10月。第14号）



市ソフトボール場オープン（平成18年6月。第31号）



佐藤芳則さんに初の市民栄誉賞を贈呈（平成19年1月。第44号）

「広報ゆりほんじょう」の創刊号は平成17年4月1日に発行されました。それ以来、1日号と15日号の月2回発行を続けています。また、人口・世帯数と「おくやみ」欄は創刊当初から、「お誕生おめでとう」欄は1年後の平成18年4月15日号から掲載がスタートしました。

100号は平成21年5月15日号でした。映画「釣りキチ三平」の舞台となった法体の滝を表紙にし、見開きの企画記事として「広報紙の編集方針」「広報紙が出来るまで」などを示しています。

200号は平成25年7月15日号で、過去の号をモザイク調に配置して表紙に。そして今号が300号となりました。

## 広報紙が友達のように

佐藤真緒さん  
(11歳・吉沢)

「お誕生おめでとう」欄に私が最初に載ったと知り、びっくりしました。広報紙を友達のように感じます。将来の夢は美容師です。会話が大切になる職業なので、国語の勉強を頑張っています。漢字の書き順をしっかりと覚えて中学校へ進みたいです。



広報紙をよく読んでいます

齋藤絵里さん  
(27歳・大湊町)

創刊号で「由利本荘市に期待すること」をインタビューされ、載りました。広報紙はよく読んでいます。最近行われた行事や人が出ている記事に目が行きます。市内に娯楽施設やショッピングモールなどが出来れば、若い人の転出が少なくなると思います。

② 広報紙と私の接点



矢島中学校・矢島高校一体型新校舎が完成(平成21年3月、第97号)



遠藤章博士を顕彰。初の名誉市民に(平成19年11月、第65号)



西滝沢水辺プラザオープン(平成22年4月、第123号)



名瀑「法体の滝」の姿が表紙に(平成21年5月、第100号)



国道108号前杉バイパス開通(平成26年11月、第232号)



五十嵐俊幸さんに市民栄誉賞を贈呈(平成24年8月、第179号)



水林グリーンスタジアム完成(平成25年4月、第194号)



過去の号でモザイク調の表紙に(平成25年5月、200号)

- 3月15日 遠藤章博士が「名誉県民」に
- 3月22日 TDKが本荘工業団地への進出を発表
- 9月17日 日本海沿岸東北自動車道(本荘IC)・岩城IC、国道7号仁賀保本荘道路開通
- 9月29日 10月9日 秋田わか杉団体のサッカー、ライフル射撃、クレール射撃、銃剣道、弓道、カヌー、ソフトボール競技を実施。佐々木健彦さん(本荘地域)、高橋巧さん(同)がカヌー(少年男子)で、神坂友絵さん(同)が剣道(少年女子)で、佐藤芳則さんがボート(成年男子)で、佐藤亜矢さん(鳥海地域)がバレーボール(成年女子9人制)で優勝
- 11月13日 遠藤章博士を顕彰、初の「名誉市民」に
- 平成20年**
- 3月21日 飛鳥大通公園オープン
- 5月10日 大内ダムが完成
- 6月29日 由利本荘ふるさと会連合会を設立
- 9月1日 西目小学校新校舎落成式
- 10月24日 遠藤章博士のラスカー賞受賞記念講演会
- 平成21年**
- 1月19日 本荘南中学校落成式
- 3月14日 矢島中学校と県立矢島高校の一体型新校舎竣工記念式典
- 4月12日 市長選挙で長谷部誠氏が当選。第2代市長に
- 7月23日 鳥海山が国指定史跡に
- 10月31日 鳥海中学校創立10周年記念式典
- 平成22年**
- 1月4日 笹子公民館を移転新築
- 4月1日 ケーブルテレビでTBS系列放送送信開始
- 4月17日 西滝沢水辺プラザがオープン
- 5月27日 市シルバー人材センター創立20周年記念式典
- 11月5日 奥羽横断駅伝競走大会50回記念式典
- 12月27日 由利組合総合病院遠隔受診受付システムの運用開始
- 平成23年**
- 3月9日 本海獅子舞番楽が国の重要無形民俗文化財指定に
- 5月10日 「絆の茂里」公園整備15周年記念平和の集い
- 7月25日 「全国広報コンクール」の広報紙(市部)で『広報ゆりほんじょう』が初の入選
- 10月1日 尾崎小学校創立20周年記念式典
- 10月25日 名誉市民・遠藤章博士が文化功労者に
- 12月19日 文化交流館「カターレ」完成
- 平成24年**
- 4月10日 あきた総合家畜市場オープン
- 6月1日 桑ノ木台湿原がオープン
- 6月30日 羽後本荘駅開業90周年記念イベント
- 7月14日 岡部祐介さん(本荘地域出身)が世界ろう者陸上競技選手大会・400メートルで銅メダルを獲得
- 7月16日 五十嵐俊幸さん(本荘地域出身)がプロボクシング・WBOフライ級王座を獲得
- 8月11日 五十嵐俊幸さんに市民栄誉賞を贈呈
- 10月25日 由利原浄水場竣工式
- 10月29日 全国和牛能力共進会で板垣幸三さん(本荘地域)出品の枝肉が2位に
- 平成25年**
- 1月29日 由利橋完成、渡り初め
- 1月30日 福島県いわき市、宮崎県延岡市と親子兄弟都市災害時相互応援協定締結
- 3月31日 市長選挙、長谷部誠氏が無投票で再選
- 4月6日 水林グリーンスタジアム完成
- 4月13日 川内小、直根小、笹子小が統合、鳥海小学校開校式。北内越小は新山小に統合
- 8月16日 第40回鳥海獅子まつり
- 8月18日 第30回本荘追分全国大会
- 9月18日 カターレ来館者100万人達成
- 平成26年**
- 3月25日 コミュニティー体育館竣工
- 4月1日 松ヶ崎小、亀田小、道川小が統合し、岩城小学校開校
- 7月26日 第30回日本海洋上花火大会
- 8月6日 第10回記念交通安全市民大会
- 8月16日 高野真直さん(本荘地域)が世界ディスクゴルフ大会で優勝
- 9月14日 第30回記念西目健康マラソン
- 10月4日 国民文化祭開幕、各会場でにぎわう
- 11月1日 国道108号前杉バイパス開通
- 11月7日 アンテナ居酒屋「由利本荘市うまいもの市場」が都内にオープン

取材・原稿整理・レイアウト・校正：「広報紙」が出来るまで

- 編集会議 広報紙の校正作業を終え、納品されるまでの間に次号の編集会議を開きます。アイデアや内容を話し合い、企画の準備や下調べを分担します。
- 取材 地域や取材先に出かけて、お話を伺ったり写真を撮影したりします。取材は紙面づくりの根幹と言えます。取材の際にはご協力をお願いいたします。



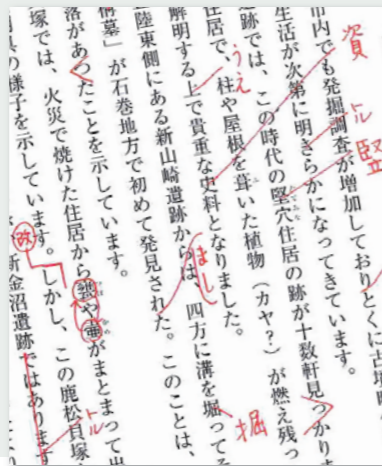
「笑顔をお願いします」

- 原稿作成・レイアウト 取材した内容を原稿にし、見出しや写真を配置して紙面をレイアウトしていきます。DTPソフトを使い、パソコンでの編集による電子データ化も進めています。



画面上で確認しながら割り付け

- 出稿 原稿や画像データをレイアウト案と一緒に印刷会社に渡します。細部の確認や調整をした後、校正刷りが届けられます。
- 校正・校閲 校正刷りを確認し、内容や文章などを推敲します。注意しているのですが、見落としが……。



- 製版・印刷 校正作業が終わると、印刷会社では製版と印刷に取りかかります。それから3営業日後に納品となります。
- 配送・配布 本荘地域は印刷会社とシルバー人材センターが、その他の7地域では総合支所や行政協力員の皆さんに配送します。そして皆さんのお手元に最新号が届けられます。



石脇地区では老人クラブの皆さんが配布を担当!



植村伴次郎さん(右)を顕彰。名誉市民に(顕彰式にはご家族が代理出席。平成27年3月。第179号)



「鳥海山・飛鳥ジオパーク」が日本ジオパークに認定 (平成28年9月。第232号)



「スポーツ立市由利本荘」を宣言 (平成28年10月。第194号)

# 伝わる 広報へ

広報紙、ケーブルテレビ、ウェブサイトなど  
特色や長所を生かして

市では、本紙『広報ゆりほん』の発行やホームページを通じた情報の配信など、5つの方法で広報事業を展開しています。  
今、広報事業は広報紙や掲示物などの紙媒体だけでなく、スマートフォン。携帯電話やインターネットの普及な

ど、情報通信技術の発達に伴い、電子メールのほか、フェイスブック、ツイッターなどのSNSに加え、スマートフォン用アプリに至るまで、さまざまな通信ツール(道具)を通じて電子化された情報をいつでもどこでも得ることができるようになり

ました。  
市では、それぞれのツールの特性や長所を生かし、安全・安心のためのお知らせや身近な暮らしの情報などの発信に努めています。  
市が取り組んでいる広報事業のメニューと主な取り組みをまとめてみました。

新聞の用字用語にならっています！

## 読みやすい文章に

広報紙は行政の専門誌ではありません。記事は読みやすい文章にするため、新聞の用字用語にならない、『記者ハンドブック』(共同通信社)に基づいています。  
例えば、活かすは「生かす」、恐いは「怖い」、充分は「十分に書き換えるほか、送り仮名の付け方にも決まりがあります。これは読み手の側に配慮し、できるだけわかりやすく書き、表記の統一化を図るルールです。また、お知らせ記事も単なる「チラシ」にならないよう、紙面全体の体裁に合わせた字体や構成で整理しています。



## 表彰記事が大きな励みに

五島多起子さん (79歳・古雪町)

100号に、私たち「子吉川市民会議」の活動の表彰が載りました。秋田わか杉国体では、ボートの選手に「花に囲まれた中で競技ができて素晴らしい」と喜ばれました。そういうことが励みになります。早朝、花の世話をすると一日中元気でいられます。

## 広報紙と私の接点 ③



平成23年全国広報コンクールの広報紙(市の部)で入選した市広報紙の表紙(平成22年11月。第135号)



スマートフォン用アプリのデジタルブックでも広報紙を読むことができます。

# 1 広報紙 広報ゆりほん 基幹的な情報媒体、より親しまれる紙面に

市にお住まいの皆さんと一緒に作っている本紙『広報ゆりほん』は、市の基幹的な情報媒体です。A4判で毎月2回、1日号と15日号を3万部発行。市政のポイントや地域に密着した情報をお届けしています。  
主なコーナーは「トピックス」「市政情報」「市長室からこんにちは」「お知らせ」などで、「市民交流サロン」や「笑売繁盛」「若い風」では頑張る皆さんの顔が見える紙面づくりをしています。イベントの告知だけではなく、クイズなども掲載し、幅広い年齢層により親しまれ、気軽に読んでもらえる工夫をしています。  
また、広告掲載料による財源確保に加え、DTP化にも取り組み、経費の抑制に

努めています。

## ●デジタルブックで閲覧

デジタルブックは、スマートフォンアプリなどいつでも広報紙を閲覧できるサービスです。本紙は「アキタイブックス」「マチイロ」から提供されています。ぜひご利用ください。

## ●音声で伝える「声の広報」

目が不自由な人のために、広報紙の内容を録音した「声の広報」があります。ポラティアグループ「こえの会」の皆さんが発行日前に記事を朗読、写真も説明し、CDにしているサービスで、中央図書館の無料貸し出しもご利用いただけます。申し込み・問い合わせ先 福祉支援課 ☎24-6314



平成28年全国広報コンクールの組み写真の部で入選3席と読売新聞社賞を受けた市広報紙の見開きページ(平成27年11月。第256号)

# 市で取り組んでいる広報メニューを紹介します



スマートフォンで開いた「ゆりほんなう」のサイト（右）と子育て応援サイト「ママフレ」（左）の画面



市ウェブサイトは、年明けを目処に全面的にリニューアルの予定です。



地域の行事や活動などを取材し、自主制作番組「情報ランド」で放送しています。



音声告知放送でJアラートなどの緊急情報も流れます。IP電話は加入者同士の通話料が無料で使えるサービスです。

## 4 SNSで情報発信 つながり作り、気軽に交流

フェイスブックやツイッターは、ソーシャル・ネットワーク（SNS）の一つで、インターネット上でつながりを作って交流する情報サービスのことで、このつながりで、気軽にコミュニケーションを取ることができます。市では、公式ツイッターやフェイスブックで行政情報やイベント情報などの素早い配信を行っています。

市ツイッターのツイート（投稿）数は約2200で、フォロー登録は約1200人となっています。また、フェイスブックではツイッターと連動して緊急情報の発信やケーブルテレビ「情報ランド」の放送告知などを行い、約千人のフォロワーを得ています。「由利本荘アリーナ建設中フェイスブック」など、個別のページも開設しています。

## 3 公式ウェブサイト 市の情報をタイムリーに掲載

ウェブサイト（ホームページ）は、インターネットを使ってタイムリーで確かな市政情報を提供できる通信媒体です。市のサイトには市の情報や暮らしのお知らせを掲載しており、市内外からいつでも閲覧できます。ウェブサイトのリミットは、掲載できる文字数や図表などに制限がないこと。広報紙などは紙面によって内容を絞り込む必要がありますが、ウェブサイトでは最新の情報をいくらかでも掲載できます。市ウェブサイトへの総アクセス数は月に約5万件。観光や移住・定住、入札

ウェブサイトを（ホームページ）は、インターネットを使ってタイムリーで確かな市政情報を提供できる通信媒体です。市のサイトには市の情報や暮らしのお知らせを掲載しており、市内外からいつでも閲覧できます。ウェブサイトのリミットは、掲載できる文字数や図表などに制限がないこと。広報紙などは紙面によって内容を絞り込む必要がありますが、ウェブサイトでは最新の情報をいくらかでも掲載できます。市ウェブサイトへの総アクセス数は月に約5万件。観光や移住・定住、入札

●公式サイトを更新します  
市ではより見やすく、利用しやすいサイトを目指し、公式サイトの更新作業を進めています。年明けを目処にリニューアルの予定です。なので、少々お待ちください。

## 2 市ケーブルテレビ ゆりほんTV 地域コミュニティを育み、安全・安心を担う情報通信基盤

市ケーブルテレビ（ゆりほんテレビ）は、市内の行事や元気の活動を映像でお茶の間に伝える貴重な通信媒体です。身近なテレビを通して市の一体感や地域コミュニティを醸成し、市のバランスある発展を担う情報通信基盤として、旧大内町での活用実績を踏まえ、合併後に全域へとケーブル網を拡充しました。ケーブルテレビの魅力は地域に密着した「みんなのテレビ」という点。保育園・小学校の行事や地域活動、イベント、発表会、スポーツ大会など、さまざまな「まちの話題」を取材し、自主制作番組「情報ランド」でいち早く放送しています。「情報ランド」は平日の夕方6時半に初回を放送し、翌日まで7回にわたってリピート。週末には一週間分をまとめた「ウィークリー」を計8回流しています。また、「笑売繁盛TV版」「スポ少Go!Go!」などのミニ企画、中学校新人戦や市議会の中継なども行っています。

生かし、次のようなサービスも行っています。  
▽データ放送（市況や気象情報などの視聴）  
▽音声告知放送（緊急防災情報や健康上の注意喚起、FMラジオの受信）  
▽加入者間無料IP電話（加入者同士は通話料無料で利用できるサービス）  
▽インターネット通信  
追加のサービスとして、インターネット（6MHz、20MHz、200MHz）をご利用いただけます。  
TBS系列も見られます  
平成22年4月から、「テレビユー山形」（TBS系列）で人気のドラマやバラエティー番組なども見られるようになりました。  
市では、ケーブルテレビの特性や魅力を広く知ってもらおうとともに、加入率の向上に力を入れてきています。日々の暮らしに密着した「安全・安心な情報源」の市ケーブルテレビにご加入ください。  
申し込み・問い合わせ先  
▽CATVセンター  
☎65-3722  
▽広報課  
☎24-6237

広報紙が故郷の今昔を見つめ、未来を紡ぎ出す水先人に —



公益社団法人  
日本広報協会  
常務理事  
**渡邊昭彦さん**  
Watanabe Akihiko

先般、中国からの留学生に「日本の自治体広報」について話をすることがありました。広報紙やウェブサイトのほか、近年ではツイッターやフェイスブックなども活用しながら市民の皆さんにきめ細かな情報発信をしていること。また、広聴活動を通して市民の皆さんの意見や要望を聞き、まちづくりやさまざまな施策・事業に反映させようと努めていること。こうした広報広聴の取り組みを、各地の事例や広報担当者の思いを織り交ぜながら説明しました。

熱心に耳を傾けてくれた留学生の感想は「素晴らしい!」。なかでも、彼らが特に関心を示したのが広報紙でした。自治体が市民に向けた全戸配布の広報紙を定期的に発行している国は、そんなに多くはないというのが通説。そう、『広報ゆりほんじょう』は、世界に自慢できる日本の貴重な定期刊行物なのです。

広報というと「広く知らせること」だと思われがちですが、広報の本来の語源は「Public Relations」(パブリックリレーションズ)。人々との関係づくりを意味します。広報紙の目的も、市民の皆さんと市との間に「いい関係」「信頼関係」を築いていくことです。

そのためには、地域の課題や希望に真摯に寄り添いながら、情報の提供と共有に努めていく姿勢が求められます。少子高齢化の進展や自然災害の多発など、自治体を取り巻く状況は厳しいものがありますが、広報紙が故郷の今昔を見つめ、未来を紡ぎ出していく水先人になってほしいと思います。

『広報ゆりほんじょう』は、本号で300号を迎えられました。日本の、そして由利本荘市の財産であるこの広報紙を、これからも市民の皆さんとともに成長させていってください。

信頼築く『広報ゆりほんじょう』は市の財産。市民の皆さんとともに成長させてください。

見出しは、法体の滝とジオパークを発信するメッセージとして素晴らしく、記憶に残る表現だと強く感じました。地域のことを掘り下げ、光を当てて記録に残したり、モニターから意見をもらったりできれば、より充実すると思います。期待しています。



伊藤 繁さん  
(71歳・石脇)

紙面づくりに工夫、見やすい広報紙です

『広報ゆりほんじょう』をいつも楽しく読んでいます。見やすい紙面づくりを工夫し、要点を踏まえてわかりやすく丁寧な説明を心がけていると感じます。

8月1日号の表紙の「看板で深まる理解、増す魅力」の

などを探したりしています。できれば、感染症やウイルス対策などについての保健師さんのアドバイスとか、子どもの遊び場のある喫茶コーナーの情報なども載せてもらえたら、小さな子どもを持つ母親たちに喜ばれると思います。



齊藤 唯さん  
(31歳・中館)

「ママフレ」サイトを利用しています

市の子育て応援サイト「ママフレ」を利用しています。妊娠・出産から子育て全般の情報までまとまっていて便利です。母子手帳を渡す時に、このサイトを紹介するといいたすね。図書館のページにたがっており、私は人気の絵本

TBS系列の番組も面白く、現地の男性相手の「お見合い大作戦」という番組を、市でも呼んでみてはどうかかなと思います。思いながら見えています。



伊藤 勉さん  
(65歳・万願寺)

ケーブルテレビは安全・安心に有効

ケーブルテレビの「情報ランド」を見ています。各地域の行事や活動がリアルに見られますし、「笑売繁盛TV版」では店の人の気持ちまで伝わってきます。また、IP電話のおかげで親類との連絡は無料で済ませています。

には親近感があり、プロバスケの「ハピネット」も来てくれるかなと期待しています。



井上明子さん  
(54歳・石脇)

広報紙は「読まなければならぬもの」

「由利本荘アリーナたぐいま建設中!」のフェイスブックをよく見えています。現場の皆さんが地域の人たちに丁寧にあいさつしており、とても好感が持てます。その点なども紹介してほしいです。地元の人としてアリーナ

心と心が通う広報紙に

広報紙(紙媒体)の特性は、一過性の情報としてではなく、記事をじっくり読んでもらうことができる点です。例えば、この特集のような企画記事で、より理解を深めることができます。そして、紙面を通じてふれあい、心と心を通わせる、交流できる点もあります。知り合いや親戚が表彰され、紙面で紹介されることはうれしいものです。子どもたちの頑張りやグループ活動に積極的な人に元気を分けてもらうこともあります。そうした皆さんの頑張りや地域や市を明るくする原動力になります。

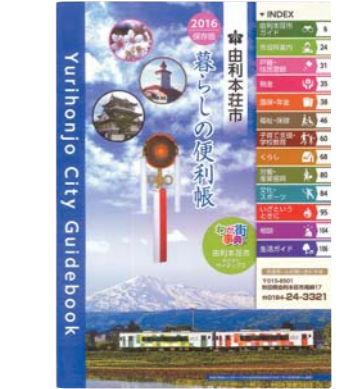
広報紙は、各地域で頑張る皆さんを通して紙面から市内各地の様子を知り、市の進み方などがわかる情報誌です。一昔前の「市政だより」ではありません。「広報ゆりほんじょう」は、これからも「心ふれあう広報紙」を基本に、手に取って読んでもらえる広報紙を目指し、皆さんの元気な姿を追い続けます。皆さんの笑顔が伝えてくれることの一つ一つを大事にします。一緒に紙面を作っていきます。取材へのご協力とご愛読をお願いたします。

〈特集・広報紙を考える 完〉

手に取って読んでもらえる紙面づくりを、これからも

心ふれあう広報紙を基本に

編集方針



5 その他の媒体  
便利帳・各広報紙

市の窓口案内や制度、施設の情報をもとめた「暮らしの便利帳」を民間事業者との協働で発刊し、全世帯に配布しています。また、「議会だより」(年4回発行)「農業委員会だより」(年2回発行)、総合支所だより(地域ごと)など

を発行し、各機関の審議内容や所管制度の周知、地域に向けたお知らせに努めています。

きめ細かな広報を推進  
このほか、生涯学習情報の冊子を発行するなど、部署や事業ごとにきめ細かな広報活動を進めています。